

栃木県農業大学校 令和6年度学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標		学部・塾	内 容				
2 教育内容の充実	(現状) ○R5の授業評価アンケートで、内容が理解できている。概ね理解できているの回答が92.6％（前年度75.4％）、とちぎ農業未来塾講義の満足度は100％（前年度84.8％）であった。 ○農業技術検定 3 級合格率は76.9％（R4まで5か年平均77.1％）、2 級合格率は7.1％（R4年度まで5か年平均19.6％）であった。 ○非農家や農業高校卒以外の学生が増えており、よりきめ細やかな講義・実習が求められ、対応に苦慮している。 ○ICTやドローン等を活用した新技術、GAPの取組が現場で拡大しつつある。 R 5 年度のスマート農業に接した学生の割合は100％（前年度100％）。 ○高機能ハウス、ドリーム牛舎など最新型施設の整備が進む一方、施設、設備、備品の多くが老朽化しており、更新や修繕が進んでいない。 ○新型コロナウイルス感染症に対応し、R 2 年度にYouTube配信による授業を行ったが、同時双方向型など教育効果を向上させるためのオンライン授業の拡充が求められている。 ○R 3 年度創設の「いちご学科」について、カリキュラムを着実に実施しつつ、問題点等の検証を並行して行っていく必要がある。	分かりやすい授業・講義（アンケート結果） ・農業生産学部 大体分かる 80％ ・未来塾 満足度 80％	(1)教育スキルの向上		○職員（教員）研修会の開催等 ・新任職員への授業展開のポイント及び学生の特徴的な傾向説明 ・Google for Educationの活用 ・新任職員向け授業見学の実施 ・スクールカウンセラー(SC)による研修の開催 ・県総合教育センター主催の初任者研修への参加 ・県総合教育センター職員講話の実施	・新任職員向け研修会（4/1） ・Google for Educationについて説明し、活用を推進（3回）した結果、14（5専攻・2学科×2学年）のうち8で積極的利用 ・授業見学日を2教科目で設定し、望ましい授業展開法を共有 ・SCによる職員研修会開催（4/30） ・総教センター主催研修への参加（3回、15名） ・総教センター職員による講話の実施（2/6）21名参加 【その他】 ・アレルギーに関する研修会（4/26）	分かりやすい授業・講義（アンケート結果） 農業生産学部 大体分かる 92.2％ 未来塾 満足度 88％ （基礎コース分）	・Google for Educationの利用が少ない専攻・学科・学年指導担当者への利用推進が必要である。教務部関係研修（4月）等と同サービスの利便性のに加え、SNS・ライン等による不祥事防止への理解深化を図る。 ・県総合教育センター主催研修への参加者増が必要である。業務として参加するよう意識づけする他、参加者の人選・指名を行う。	学生へのアンケートで授業の理解度が92％は立派である。職員は自信をもって良い。 →理解度は上がってきている。授業の改善ポイントを各講師に返している効果でもある。
					○指導者研修会への参加 ・農業教育機関指導者向け研修への参加	・農大指導者向け研修 1名参加（8/7） ・とちぎ職業人材カレッジ指導力向上研修（2回、3名参加） ・関東ブロック教育方法研修会 1名参加（9/13）		・各研修への参加者増が必要である。業務として参加するよう意識づける他、参加者の人選・指名を行う。	職員の教育センター研修参加は効果的であろう。更に、職員の教育スキルの向上には年月がかかる。異動スパンは長期とされたい。
					○授業評価の実施 ・学生向けアンケートの実施 ・職員（教員）向け授業改善方法の提案	・GoogleClassroomを使用し、学生による授業評価を実施（前期：7～8月、後期：1～2月）。評価結果は全体的に向上 ・結果を各講師に配付（前期：9月、後期：2月）。教科目別と全科目平均の比較を促進 ・アンケート結果から授業の改善ポイント資料を作成。外部講師も含め配付（12月～）		・スマホでのアンケート回答入力のためか、数値評価はするものの、学生からの意見コメントは少なく、学生の意識高揚が必要である。指導担当を通して授業へ反映する目的を伝え、意見・要望の発進を促す。	→職員育成に配慮して対応する。
					○学部と研修担当間の栽培体系の統一	・2学科および研修科で栽培しているいちごの栽培技術の高位平準化を図るため、夜冷処理や病害虫防除等の栽培体系を統一 ・指導担当職員ほ場検討会開催（2回：育苗期・定植期）		・いちごに関わる学部と研修科の指導担当職員を参集して、ほ場検討会を引き続き実施していく。	農大の2年間の教育で、過度の知識の詰め込みは不要である。生育データの調査分析、活用方法をじっくりと習得させてもらいたい。
			(2)生産技術、経営能力の向上	生産学部 経営学部 未来塾	○実践教育の実施 ・非農業高校卒かつ農作業未経験者への重点対応 ○農業技術検定に係る講義の充実 ○基本技術の徹底指導	・農業高校卒も含めて農具・農機名や使い方から説明 ・教務部会で、検定向け講義以外の講義・実習での取組充実推進、役割等説明 検定2級の農業一般に係る講義を2コマに充実		・農業技術検定の出題は、幅広く難しい問題が多いため、問題集を活用した詳しい講義が必要である。引き続き2コマの講義を実施し、理解の深化を図る。	→専攻実習で実践させていく。

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		評価指標		学部・塾	内 容																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	(課題) ●卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもちろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。 ●農業技術検定の講座は後期からであるが、前期の各専攻、学科の講義内での対策も必要である。 ●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。 ●水田等への土地利用型作物の拡大、みどりの食料システム戦略等の施策に対応した実習が必要である。 ●ICTやロボット技術、ドローン活用等、スマート農業を取り入れた実習が求められている。 ●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。 ●オンライン授業について、様々な場面での活用を念頭に、同時双方向型授業に向けた問題点の検証、模擬授業の実施等、着実な環境整備が必要である。 ●「いちご学科」について、引き続きカリキュラム構成及び内容に関する検証や改善、農業振興事務所や受入先農家等との円滑な連携に取り組む必要がある ●とちぎ農業未来塾では、基本技術に加え、新技術に対応した施設整備及び指導力の強化が必要である。	農業技術検定合格率 ・農業生産学部 3級 100% 2級 33%以上	スマート農業に接する学生の割合 100%			○先進技術の導入	○G A Pに係る教育の充実	・果樹グローバルGAPの認証継続審査を受検（8/9）、認証完了（11/15） ・米のとちぎGAPの審査を受検（11/18）、認証完了（12/20）	農業技術検定合格率 農業生産学部 3級 84.4% 2級 7.1% 1級 0.0%	・果樹のグローバルGAP、米のとちぎGAPは認証継続を目指す。これらの取組みを活かしGAPの理解度を高める。 ・とちぎグリーン農業の内容を新たに授業に加えて、持続的農業について理解促進を図る。	100ha規模の超大規模経営の体系化を農大生に学ばせてほしい。 →メーカーとの連携、校外学習等で対応していく。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
						○連携協定等による教育研修の充実	・水田：ドローン（5/17）、ロボット田植機（5/20）実演					・水田：ドローン（5/17）、ロボット田植機（5/20）実演 ・未来塾：ラジコン草刈機（8月）、ドローン(9/25)実演 その他：露地野菜専攻がIFC調理製菓大学校と六次産業化（10/9）実習																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
						・全農や農機メーカーと連携したスマート農業機器の利用実習の実施	○I C T技術・新品種等の導入						・ICT技術や県オリジナル品種等の新品種を活用した栽培実習の実施	・ドリーム牛舎内でモニタリング（カメラ）による牛の発情や分娩管理、水稻ではドローンを活用した直播栽培を実施 ・いちご、トマト等の施設野菜ではICT環境制御を実践 ・水稻「とちぎの星」、いちご「とちあいか」など県オリジナル品種の導入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
						○土地利用型園芸技術の習得	・たまねぎ、ねぎの機械化一貫体系利用実習の実施						○土地実習の充実		・たまねぎ及びねぎの播種、定植、収穫、出荷調整作業の実習で機械化一貫体系の農機利用（5～9、11月）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
													○経営管理能力の習得	○実践的経営管理学習の充実	・作物・露地専攻3回、施設野菜専攻3回、花き専攻2回、果樹専攻2回、畜産学科7回、いちご学科9回、未来塾4回の先進事例調査等を実施。 経営特別講座は（3）に記載		・より省力的な栽培体系を模索しており、次作のたまねぎ栽培では、直まき栽培の実証に取り組む。	耕種部門の学生はどれくらい在籍し、カリキュラムは充実しているか。 →耕種部門を指向する学生は1学年25名前後と多い。実習では高校ではできない機械の操作等、農作業全体を網羅、充実させている。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
													(3)主権者教育の充実	生産学部					○学生寮生活を通しての教育	・寮生会総会 6/26 ・寮清掃 7/29、12/19、2/7 ・寮防災訓練 12/6 ・寮生会主催イベント 2/3 ・寮教育指導補助員の協力のもと順調な寮運営																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
																			○販売学習機会の充実		（再掲）校外販売実習の実施（カインズホーム：8回、県外2回）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
																			・共同生活を通した生活習慣、社会生活マナーの養成																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																								・寮内での生活習慣やマナーが守られるよう継続して指導していく。	寮生活では良い生活習慣が身につくと思うが、寮生は楽しめているか。 →寮生の中にはストレスをかかえる者もいるが、退寮後は、大半が楽しかったと振り返る。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～									
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標		学部・塾	内 容				
		デジタル教育を利用する学生の割合 100%			○社会生活講座・経営特別講座の充実	・教務部会と運営会議の意見を反映し、社会生活は昨年度から4講座のテーマを変更。 ・社会生活講座は8回（11～1月）、経営特別講座は7回（11～1月）開催	デジタル教育を利用する学生の割合 100%	・講座の受講後に提出させる学生レポートを参考に、適宜、テーマの見直しを行っていく。	学生に社会人経験者はいるか。社会人向けのカリキュラムはあるか。 →農業生産学部生に社会人経験者も在籍するが少数。社会人経験者の大半は未来塾へ入る。未来塾には基礎コース、専門コースがある。専門コース終了後は9割が就農する。女性も多く在籍している。
			(4)時代に応じた社会人研修の充実	未来塾	○とちぎ農業未来塾の講義内容・講師等の検討 ・とちぎグリーン農業推進方針に対応する新たな有機農業講座の開催	・有機農業実践研修を6回（座学4回、現地研修2回）開催。		・有機農業実践研修は、より多くの方に参加してもらえるように要領を早期に策定し、関係機関やHPを通して周知する。	
			(5)授業・研修のオンライン、デジタル化	生産学部 経営学部 研修科(ビジネススクール)	○P C等を活用したペーパーレス講義の実施	・内部職員による授業：25教科目中21教科目でペーパーレス導入（84%） ・外部講師による授業：32教科目中21科目でペーパーレス導入（66%）		・学生への授業評価アンケートでは、資料の配付を望む声もある。教科書等の手元資料に載っていない内容を映写する場合には、映写内容データの事前提供に努める。	
					○オンラインを活用した講義による授業運営の効率化 ・とちぎ農業ビジネススクールの開催	・とちぎ農業ビジネススクール全15回（6～2月）中10回をオンラインで開催。7名が受講		※ビジネススクールに代わり、R7は新たな研修制度に移行する。	
			(6)校内環境の整備・リスク管理の徹底	生産学部 経営学部 未来塾	○学校施設・設備の維持管理 ・施設・設備の破損状況等の把握と計画的・効率的な修繕・改修	・計画的に修繕を実施。 ・破損箇所については、適時修繕を実施。		施設・設備の更新や修繕を計画的に実施する。	
					○施設・教育現場でのリスク対応点検の継続実施 ・ヒヤリハット事例の情報収集と対策の実施 ・ヘルメット着用等の安全作業行動の徹底	・熱中症対策として、各実習場所に経口補水液等の熱中症対策グッズを配置。健康観察に加えて実習の際にこまめな水分補給や休憩を取ることで、熱中症の未然対策を実施 ・実習前のヘルメット着用等安全作業指導（随時） ・自転車使用に当たっての注意事項指導（1月） ・農場内の安全点検を実施し、交差点の危険箇所に表示をするなど安全対策を実施(3月)		・引き続き事例の情報収集と対策を実施する。 ・引き続き事前指導を徹底する。	
					○環境美化の励行 ・環境美化通信の定期発行による意識啓発 ・分担区域の定期的な環境整備の実施	・各学科専攻による環境整備の実施（適宜） ・環境整備通信の発行（4回）		・引き続き定期環境整備を行う。	
					○個人情報の適正管理 ・記録媒体や資料の持ち出し厳禁等、情報漏洩防止対策の徹底	・学生名簿・成績データに開封時のパスワード設定 ・学籍簿・入試出願書類は金庫に保管 ・不要な個人情報書類は必ずシュレッダーで廃棄		・引き続き適正管理に努める。	